

暑い日が続きます。お元気でしょうか。当院も六月で開院五周年を迎え、新たな気持ちで診療に当たっています。

開院時に私の父から一枚の書を貰いました。「一日一生」とあり、一日を、尊い一生のように生きなさいという意味だと思います。果たしてそういう生き方をしているかは疑問ですが、一生懸命突っ走っているのは間違いないと思います。

子供のころから「一日一善」ということはずっと言われてきましたが、最近聞きませんね。世の中が変わったのか、自分が変わったのか。以前見たドラマで吉田松陰さんが弟子に言った言葉で「人は皆、善である」と言葉がずっと心に残っています。松陰さんは人の長所を見抜くのに長け、常に弟子を褒めたそうです。また対話を大事にし、お互いが学ぶ形で講義をしたそうです。悪い所を指摘し、変えさせるのではなく、長所を伸ばすことで欠点が出ないようにしたのではないかと思います。誰しも皆百点ではなく、欠点も有ってその人が形成されているわけですが、長所が欠点をカバーするように向けたものと思います。

ところが全く逆に、人の欠点を大きな声で非難したり、それどころか誹謗中傷（根拠の無いことを言いふらして、他人の名誉を傷つけること）する者がいます。これは名誉毀損や侮辱にあたることで、慎まねばなりません。しかし世の中には他人の悪口を言いふらして自分を正当化し、あたかも自分が優れていると思われる不屈き者もいます。他人を評価する時はそういう中傷に紛らされず、公平な立場で、複数の意見から、真実を見出す必要があります。過去の歴史でも意図的な誹謗中傷を誤って信じ、最も信頼すべき人を失ったり、極端な場合殺害したりしています。当然そうなれば、その人は失脚し、社会は乱れます。病院の中でも同じことが言えます。

話が大きくなりましたが、私個人は松陰さんの言う「人は皆、善」ということを大前提に生きているつもりです。人の長所を見つけ、それを伸ばすお手伝いができればこんな幸せはありません。極端に問題な部分→これはもうほとんどしつけの世界の話で、欠点と言うより行儀作法の話だと思います。

開院六年目を迎え、病院は常に新しい事を考え、これまで考えられないような新しいサービスを提供できるような組織づくりを行いたいものです。「善」な職員をたくさん増やしましょう。

